

めん羊・山羊・鹿を飼養している皆様へ

食品の基準値を超える乳・肉を生産しないよう、以下に気をつけて下さい。

- めん羊、山羊、鹿は、牛に比べて放射性物質が体内に移行する割合が大きいので、牛と同じ飼料を与えると、生産される乳や肉が食品の基準値を超える可能性が高くなります。
- さらに、牛に比べて、放牧時に牧草の根に近い部分まで採食するので、土に含まれる放射性物質の影響を受けやすくなります。
- このため、厳格な飼養管理が必要です。
 - ①東北・関東では、当面放牧はやめましょう。放牧の可否については、県へご相談下さい。
 - ②飼料は、放射性セシウム濃度ができるだけ低いものを使いましょう。

<参 考>

放射性セシウムの飼料から畜産物への移行係数（最大値）

	肉	乳
羊	1.3	0.32
山羊	1.9	0.33
鹿	2.8※	—

※ 1 試験のみ

同じセシウム濃度の飼料を与えた場合、移行係数の数値が大きい方が、乳や肉中の濃度が高くなります。

このことに関するお問い合わせは

〇〇県〇〇課

〇〇－〇〇〇〇－〇〇〇〇